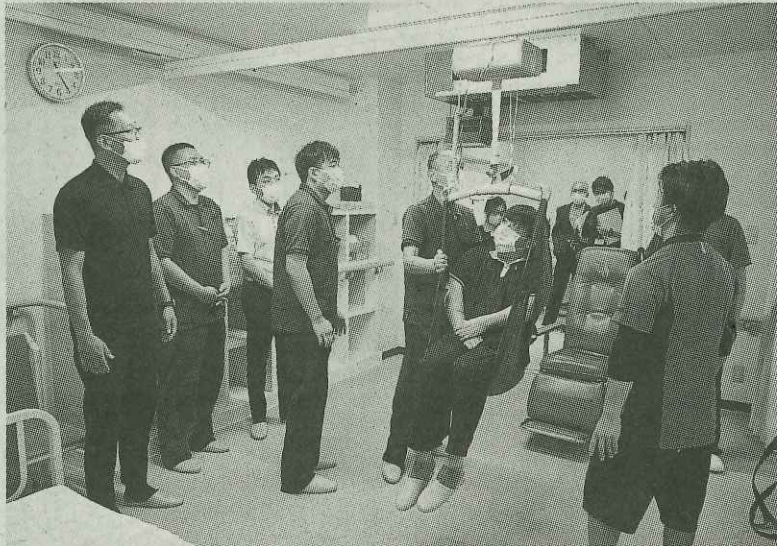


# ICT活用事例など学ぶ

## 介護職員の負担軽減推進 県のモデル施設で見学会

日向市

介護現場へのロボットやICT(情報通信技術)導入支援に力を入れている日向市は18日と22日、県のモデル施設に指定されている同市美々津町の特別養護老人ホーム立縫の里黒木教裕施設長)で見学会を開いた。県内の高齢者施設や医療機関から120人が参加し、介護職員の負担軽減に向けた活用事例を学んだ。



力を使わず自由な方向に人を運べる天井リフトを体験・見学する参加者＝日向市美々津町の立縫の里

両日とも午前と午後に分けて実施。参加者は職員のみならず、関係者も参加した。

案内で、ベッドの一部に敷く帯状の体動センサーや排尿・排便センサー、車いすから体を抱え上げて歩行などを補助するロボット、入浴などの際にハンモックのように体を吊り上げてベッドや車いすへ楽に移動できる天井リフト、2次元コードとアプリで管理する服薬システムなどを見学した。

また、黒木施設長が、施設内ではナースコールや患者の状態、作業・対応の確認、勤務シフトなどのあらゆる情報を一元的に集約

し、職員全員がスマートフォンで共有できるよう構築したシステムについて紹介。職員も気付いたことや申し送りを、スマホから音声でも入力して即反映できるメリットを伝えた。

こうした成果として、ナースコールの対応は平均8・34秒短縮、誤差率は0・83%から0・12%(今年はゼロ)に、残業時間は89・3%削減できたと報告。入院率は0・79%と低水準を維持し、アンケートで職員たちは「もうシステム導入以前には戻れない」と、大幅な負担軽減を評価しているという。



延岡市立縫の里＝23日、宮崎市

延岡市の特別施設から参加した介護職員の早瀬久美子さんは「人材が減って職員の平均年齢も上がる中、お風呂の天井リフトはとても必要だと感じた。働きやすさや魅力がある職場で、ここで働きたいと思う人は多いのではないかと刺激を受けていた。

立縫の里を運営する社会福祉法人立縫会(黒木宣博理事長)は人材確保に向け、2021年に厚生労働省から子育てサポート企業「くるみん」の認定を受け、24年には「介護職員の働きやすさ」をテーマに、黒木理事長は予想を上回る参加申し込みを喜び、「介護業界は大きな転換期にある」と、全員で改革していこうという覚悟を持たなければ

という。人材確保やIT・DX化、公定価格での運営といった課題を乗り越えられないと思う。皆さんと力を合わせて乗り越えていければ」と話した。

新たに着任、国際交流員ら市長表敬

延岡市

延岡市の第14代国際交流員クルッシュニン・デミトリさん(30)と、第47代外国語指導助手アシユリン・ステインバークさん(22)が着任し、8日、三浦久知市長を表敬訪問した。クルッシュニンさんはド

## 岩崎さん延岡に本部長感謝状

県警

### 歯牙鑑定で身元特定に貢献

県歯科医師会(上窪高志

会長)の警察歯科および災害時対策会議は23日、宮崎市で開かれた。歯牙鑑定で遺体の身元特定に貢献したとして、延岡市恒富町のいわさき歯科口腔(こうくわ)外科院長で同市歯科医師会会長、岩崎浩行さん(65)に警察本部長感謝状が贈られた。

会議には歯科医師会の担当者や県警幹部ら約65人が出席。大規模災害に備えて身元確認や災害医療の知識、支援などについて、